

平成18年7月1日  
(2006)  
第62号  
毎月発行  
編集  
公民館だより編集室  
発行  
西東京市保谷公民館

# 西東京市 公民館だより

田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170  
保谷公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211  
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825  
住吉公民館 住吉町6-1-25 TEL 421-1125  
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855  
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011

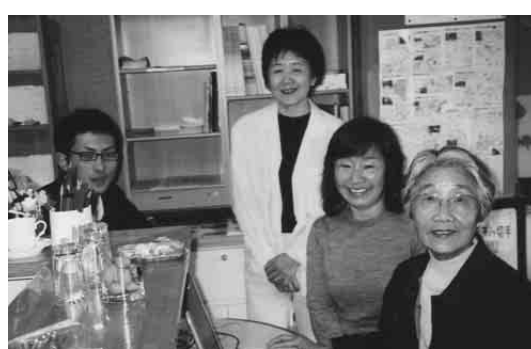
## あなたもメールで安心 地域で助け合ひの輪 リボンネットワーク

ITの普及にともない、Eメールがコミュニケーションの道具として日常的なものとなりました。市内には、メールを使って高齢者の安全、孤立防止に取り組んでいるグループがあります。パソコン、携帯電話は、高齢者の強い味方となります。

泉町のコミュニティスペース「ふれまち」カウンターに数台のノートパソコンが並びます。リボンネットワークの体験講習会です。リボンネットワークは、安心して暮らせる地域づくりを目的に平成16年10月にスタートしました。

一人暮らしの高齢者の健康や安全、社会的孤立を心配する声が高まっています。そうした状況を背景に、Eメールを駆使した新たなコミュニケーションの取り組みとして立ち上げました。

現在の会員は29人です。うち5人が「メル土」(「メール」とフランス語の「メルシー」ありがとう)をかけた造語)です。メル土は日曜を除く毎日、自分のグループの一般会員4、5人にメールを送ります。受け取った会員はメル土に返信。こうして、安否確認、孤立化の防止、健康上の問題の早期発見が図られます。



2日間返信がない場合、メル土が電話し、それでも応答がないと事務局員とメル土が訪問するなどの措置をとります。会費は年2千円。入会時、希望者にはパソコン操作講習もあります。また、パソコンがない人には一年間の無料貸与を行います。

「会員がメールを楽しみにしているのがわかります」メル土はネットワーク上のニックネームを名乗っています。「山ちゃん」こと山崎さん(76歳)は言います。

「さらに、メールを通してパソコンへの関心が深まり、ホームページを見て情報を集めたりしている人もいます」山崎さん自身、女学生のような気分でのメールのやりとりを楽しんでいます。

「顔はわからないけれど、気持ちに通じ合っています。やさしい人なんだな、とか、花が好きなんだな、とか、その人が見えてくる気がするんです」

「将来は、いろいろな事情で講習会に来られない人への対応も考えていきたいと思っています」

現在は、活動に理解を示してくれた市民や、パソコン関連企業の協力を支えられています。「介護予防についても体を動かすことだけではないのでは」「このようなITを使ったコミュニケーション活動は、20年後には当たり前になるのでは」スタッフ、メル土の声です。

交流会を随時催して、希望する会員は顔を合わせて交流することもできます。もっと会員を増やして、支えあひの輪を広げたいと考えています。

連絡先 ☎ 425-6090  
セブロス内  
E-mail ceproce@kch.biglobe.ne.jp

「ふだん話す機会がない高齢者とのやりとりは勉強になります」と語るのもう一人のメル土、内藤さん(24歳)。

「祖母が亡くなる前に『電話してるときだけが、生きてる実感がある』と話していたんです。それがコミュニケーションの必要性を教えてくださいました」体験講習に来るのは心身とも元気な高齢者です。

「将来は、いろいろな事情で講習会に来られない人への対応も考えていきたいと思っています」



まわりには心配顔の人ばかり

## サークル訪問 ~語ろう会~



訪問した日は竹村講師の「秦の始皇帝と『史記』の世界」と題して中国の歴史に関する講演が行われていました。うなずきながら講師の話に聞き入っている参加者の姿。中国古代史の歌を講師と一緒に合唱する場面もあり、熱心な様子が印象的でした。

講演終了後、役員でもありこの日の講師をも務めた竹村さん他、役員のみなさんに話を聞きました。

この会は、役員がそれぞれに興味のある自分の得意な分野について講義形式で語り、会員以外の講師にも語ってもらい、そして受講者も自分の意見を語る。まさに「語ろう会」という名のとおり活動をしています。

「講演後の自由討論の時間で講師を含めて参加者同士で意見交換ができるのが魅力なんです。しかもまだ十分とは言えませんが」と代表の河野さんは語ります。

会の発足から22年。長く続いている秘訣も「語る」学習の魅力にあるようで、「話を互いにすることで新たな知識を得る喜びを味わったり、興味のなかつた分野にも関心が広がったりします」集まって語り合うことが楽しくて、生き甲斐を感じますね。「自分のつたなぞを知ること



文学とすみれ  
~詩と歌に登場するすみれ~

と き : 7月28日(金)  
13時30分~16時

と ころ : 保谷公民館

講 師 : 高樋信也

会 費 : 300円

連絡先 : 河野 ☎461-1404

## こらむ公民館

### ―都市型公民館の原型―

公民館は、はじめ、町村を中心に農村地方に普及しました。やがて、大きな転機が訪れます。一九六五年の早春、小川利夫さん(当時、日本社会事業大学教授)は次のような文章を書いておられます。

「僕は公民館活動の今後のあり方について、いわゆる公民館三階建論なるものを主張してきました。それはもちろん、公民館の建物を三階にすることではない。ノすなわち、一階では体育、レクリエーションまたは社交を主とした諸活動がおこなわれ、二階ではグループ・サークルの集団的な学習・文化活動がおこなわれる。そして三階では、社会科学や自然科学についての基礎講座や現代史の学習についての講座が系統的におこなわれる。」

その頃都市部では、ようやく戦災から復興しはじめたものの、青年団や婦人会活動は成り立たなくなっていて、どこから公民館活動に手をつければいいのか判らない状態でした。この文章は、まずは公民館という建物をつくり、そこを活動の拠点として三層の公民館活動を始めるという都市型公民館の鮮明なイメージを示してくれたのです。

奥田泰弘  
(西東京市公民館運営審議会委員・日本公民館学会事務局長)